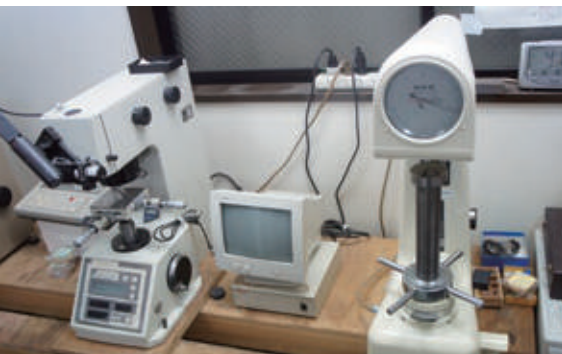


# 3名の小さな組織で マネジメントシステム認証取得

## 息子が跡継ぎに 父のISOマネジメントシステム活用という決断

神奈川県横浜市の住宅街に拠点を構える有限会社オニム精機製作所は、硬さ試験機の修理および校正を行っています。

家族経営で社員3人の企業でありながら高い校正技術を保有し、製造系グローバルメーカーとの取引を拡大しています。



### 有限会社オニム精機製作所

代表者：海野英之  
資本金：300万円  
業務内容：硬さ試験機校正事業  
従業員数：3名  
所在地：神奈川県横浜市中区清水ヶ丘16

- 2002年：本社を登録範囲としISO9001認証取得
- 2008年：JCSS（校正事業者登録制度）認定取得

### 事業継承のための マネジメントシステム

「企業が生き残るためには、特徴を出す必要がある」と、海野社長が本気で考えるようになったのは、ご子息への事業継承がきっかけでした。

有限会社オニム精機製作所は、従業員3名の小さな組織。ご子息へ事業を引き継ぐにあたって、「特徴ある企業」を模索していた社長は、持続的に成長できる体制作りを目指してマネジメントシステム（以下、「MS」という）規格に着目しました。

当時は大企業を中心に取得が進むMS認証でしたが、「社員3人の企業でも認証は

取れる」と同業数社に声を掛け、2002年に勉強会をスタートさせました。土日祝日を利用して、「MSとは何か」という初歩のレベルから、コンサルタントが指導する勉強会が1年半継続して行われました。

実際にISO9001認証の取得を目指して活動を始めてみると、慣れない文書化に関する作業が壁となって立ち足ばかりでした。普段は業務上の情報伝達も口頭で済んでしまうので、わざわざ紙に書く必要がなく、文書の作成自体がなじみのないものだったからです。そのため、認証取得に必要な書類を確認し、文書の作成・修正をする作業には大変な苦勞がありました。特に、社長・ご子息・コンサルタントが思い思いに自分

の意見を言い合うので、それをまとめてひとつの形にしていく作業は容易ではありませんでした。しかし、その過程が、お互いの考えや立場への理解を深め、力を合わせて推進しようというコンセンサス醸成の一助にもなりました。

### MSは本来業務と一体

ISO9001認証取得への取り組みを積極的に進めていた一方、社長には「ISO9001に取り組む必要性」、「社員3人の企業で本当にできるのか？」という思いがつきまわっていました。そんなとき、コンサルタントが口にした「本業の業務にMS規格の要件を取り込めばいい」という一言にピンとくるものがあつたといいます。

そこから、オニム精機製作所流の「普段の仕事を見てから要求事項を見る」取り組みの基本スタンスが決まり、これを徹底していく過程で社員の意見を集約し、「贅肉のないマニュアル」を完成させることができました。ご子息が取り組みに本気になったのも、このときからです。

ISO9001認証取得から6年が経ったころ、今度は大企業の取引先や顧客企業からJCSS認定取得の要求が高まりました。JCSS認定とは、独立行政法人製品評価技術基盤機構が制度化した校正事業者登録制度です。JCSSのロゴマークが貼付された製品は、認定を受けた校正事業者が校正を行った証となり、信頼性が高まるとともに、

## ◆贅肉のないマニュアル体系

## 贅肉のないマニュアル・管理文書

## 「品質マニュアル」

文書化要求のある6つの手順は、すべて品質マニュアルの中に手順を記述することで管理対象文書を最少にしている

- ・校正業務手順書
- ・校正（検証）手順書
- ・帳票類

## 「伝言帳 (note)」

受注状況を含むあらゆる情報を記録

輸出する際に有利になります。

また、JCSS認定を取得することにより、ISO/TS16949（自動車産業向けの品質マネジメントシステムの技術仕様）の要求事項を満たすことができ、企業競争力が上がります。

### 大企業と同じ土俵で コミュニケーションが可能

有限会社オニム精機製作所にとってISO9001とJCSSは「信頼のお墨付き」であり、成長と発展のための「特徴」にもなっています。実際に、ISO9001認証を取得していることで小さな企業であっても信頼が得られ受注増に結びついたり、大企業を含む顧客企業からの監査が簡素化・簡略化するなどコスト削減にも役立っています。

さらに、MS認証を取得していることで仕事の入り口が広がり、それまでは商談前に門前払いされていたが、それもMS認証取得後は少なくなりました。大企業と相對しても「同じ土俵で」会話ができて、品質に関するコミュニケーションの共通認識が得られるということは大きな意味を持っています。海野社長は、「MS認証を取得していることで、工場に入れてもらうことができ、自分たちの技術力を見せられる。技術力が見せられればこっちのもの」と、認証取得のパワーを十分に生かしています。

さて、MS認証取得は意外なところにも効果を発揮しました。同社のトップである

社長とご子息とは親子の関係であるため、どうしても考えが「なあなあ」になりがち。一方で、考え方が違う場合はぶつかり合いも激しく、お互い頑固になってしまうこともあります。そうした時に外部審査があると、社内に良い緊張感を与えるだけでなく、お互いが冷静になり、論理的に議論できる機会を提供してくれるのです。

ご子息への事業継承をきっかけに、二つの認証は、①従来の業務の中で品質の向上を実現するISO9001、②信頼性を高めて特徴を打ち出していくJCSS、という大きな役割を担っています。

「同規模の会社でJCSSを取得している会社は存在しない」という社長の言葉は、小規模の弱みを逆にとり、一歩抜きん出た強みに変えることができたという自負と、強みと弱みを理解して生かすことこそが、事業の成長と次世代への継承に重要であるという意識がうかがえます。

### 3名の小さな組織でも MSは運用可能

現在ではMS活用で成果をあげている同社ですが、当初は「3名の小さな組織でMS認証を取得して、本当に運用を継続できるのか？」という不安からの出発でした。長続きさせるには、業務量を増やすことなく、時間と労力を掛けずに運用していくことが必要になります。そこで、頭を悩ませて試行錯誤し、外部コンサルタントからのア



海野社長

ドバイスを受けて辿りついたのが、前述の「本業との一体化」を根幹にした、シンプルな運用の仕組み作りです。ISO9001に特化した記録類は思い切って簡略化し、個別のマニュアルを統合して手間と無駄を大幅に削減しました。

認証取得を決めた時から長年にわたる地道な活動で理解を深めてきた、有限会社オニム精機製作所。時の経過とともに、MSを発展と成長の基盤として、「次世代に継承するために十分な信頼と特徴」を獲得するまでとなっています。